

2024 年度第 2 四半期決算説明会 質疑応答

(説明会概要)

- 日時： 2024 年 11 月 7 日(木)16:00~16:30
- 形式： OKI 本社よりオンライン配信
- 説明者： 代表取締役副社長執行役員 寺本禎治

(質問者 A)

- Q1：米国大統領選挙の結果を受けて、ビジネスへの影響・リスク等を教えて頂きたい。
- A1：海外売上比率の観点では、現在は米国向けの売上規模は大きくないため影響は大きくありませんが、外国為替の相場変動に伴うインパクトとして、US ドル/円相場において 1 円円安で年間約 5 千万円の営業損益悪化となる仕入構造がありますので、このようなリスクは注視して参ります。
- Q2：エンタープライズソリューションの増益要因として、前年同期の部材コスト増の影響剥落という説明があったが、外国為替の変動が影響しているという理解で宜しいか。
- A2：昨年度実績としてサプライチェーン影響・部材調達難に伴い調達コストが高んだ背景があり、今年度はその要因が剥落し、増益のうち約 30 億円の金額規模の影響がございました。

(質問者 B)

- Q3：上期増益要因として、エンタープライズソリューションにおける新紙幣対応案件やその他大型案件の取込みという説明があったが、それぞれどの程度業績を押し上げたか教えて頂きたい。
- A3：売上規模で申し上げますと、新紙幣対応案件で 50 億円から 100 億円、その他大型案件で 200 億円、前年比で増加となっております。
- Q4：上期は大幅に増収した一方で、下期は少し落ち着く見通しという理解で宜しいか。
- A4：下期についてはご認識のとおりです。新紙幣対応案件については上期でほぼ完了致しました。一方で、その他大型案件については特定のお客様の案件があり、工場は下期もフル操業で来年度も継続する見通しです。下期の売上が対前年で増えるということではありませんが、来年も大型案件の取込みは継続致します。
- Q5：パブリックソリューションについて、上期実績として道路や防衛の増収、今年度見通しでは消防・防災も含め伸長と説明があったが、どの程度伸びるのか教えて頂きたい。
- A5：上期は確かに前年度比増収ですが、社会インフラソリューションや特機システムは下期に売上が大きく計上されるビジネス特性上がありますので、年間ベースで前年度比を申し上げますと消防・防災・道路等で約 3 割増、特機システムでは 6~7 割増の見通しでございます。
- Q6：パブリックソリューションにおける年間売上高確保の状況について説明があったが、このうち防衛事業に係る今年度の受注の伸び、また来年度以降の伸長イメージを教えて頂きたい。

- A6：年間ベースの受注は前年度比で大幅に伸長しています。現行中期経営計画の最終年度である来年度計画もこれから着手、また次期中期経営計画期間についてもこれから策定することになりますのであくまでもイメージとしてご理解頂きたいですが、特機システム事業については、今後 5 年先くらいまでは上昇トレンドになるうかと見立てております。

(質問者 C)

- Q7：EMS について、前年度下期実績に対して今年度下期見通しをどう見ているか、市況の見通しを含めて教えて頂きたい。
- A7：EMS については、前年度後半以降の市場停滞により苦戦を強いられていると説明して参りました。半導体および FA・ロボットの市況について、当初は今年度下期に回復するという見通しでしたが、足元は回復が見られず現時点では本格的な回復は来年度以降になると考えます。このような不透明感があり、今年度営業利益は上期実績で 10 億円の赤字、下期を 20 億円の黒字見通しとし年間 10 億円と致しました。

(注) 本資料における予想、見通し、計画等は、現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断される一定の前提に基づいております。したがって実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。なお、記載内容につきましては実際のやり取りに即しておりますが、理解しやすいように部分的に編集を加えております。